

JCSSA 米国トップエグゼクティブ研修ツアーレポート

日本コンピュータシステム販売店協会（JCSSA、会長＝大塚裕司・大塚商会社長）の会員企業で構成した「JCSSA 米国エグゼクティブ研修ツアー」は 10 月 17 日～22 日、米国カリフォルニア州のシリコンバレー地域にある米国主要 IT 企業 6 社との情報交換を行った。会員の首脳ら 19 名は、インテル社を皮切りに、シトックスシステムズ社、ヒューレットパッカード社、トレンドマイクロ社、アドビシステムズ社、ゾーホー社を訪問した。

■INTEL

インテル社ではパーソナルコンピュータの将来予測とエネルギーへの取り組みという 2 つのテーマの発表を聞いた。

コンピュータの現状および今後として、ムーアの法則が順調に推移しており、インテルとしてはどんな端末からでも親和性高くシームレスなコンピューティングが出来るよう端末およびデータセンター環境に対して一貫した研究・開発を続けている。

重要なトピックスとして ①Ultrabook™ for Business（セキュリティ・管理機能を強化した企業向け薄型ノート PC ガイドライン） ②Cloud 2015 Vision（パブリック・プライベートクラウド間でのデータ連携、自動化、PC, モバイル, タブレットなどあらゆる端末への最適化） ③ Intelligent Clients & Client-Aware Cloud（クライアントの多様化に応じてクライアントに応じたサービスが出来るよう、クラウドがインテリジェンス化） ④Security（マカフィーの買収によりハードウェアレベルからのセキュリティを更に強化）の説明をうけた。



2 つ目のエネルギーに関して、インテル社は、エネルギーの効率的消費、コネクティビティ、セキュリティを大きく 3 つの柱として、IT システムの更なる低消費電力化と IT を活用したグリーン化推進を進めている。2014 年には 20 億台になると予測される PC の電力消費は 2007 年時点（10 億台）の半分、かつ処理能力は 17 倍になるという予測データに触れ、それらはさらなる消費電力の効率化とシリコンの微細化により実現されるもので、同社の戦略と一致する。

スマートグリッドに関してはグローバルで規格の標準化が重要であるとして、様々な業界・企業とのコラボレーションを図っており、特に日本企業をエネルギー業界の牽引役として重要視している。またインテル社では電力管理アーキテクチャーとして「POEM(Personal Office Energy Manager)」を進めており、ヨーロッパ不動産業界の事例や、日本オフィス環境でのプロジェクトに取組み中であるという説明をうけた。

その後、ショールームでインテルの歴史、数々の名機を見学し、PC 業界を支えてきた偉大な功績とインテル社のビジョンが未来へ向けて脈々と続いている事を体感できた。

■ Citrix Systems

シトリックスシステムズ社は” だれでも、どこからでも、活用できる世界へ” を理念として、包括的なソリューションを提供している仮想化・ネットワーク・クラウドのリーダーカンパニーである。

IT の 2 大トレンドであるクラウド／仮想化（パーソナルクラウド、プライベートクラウド、パブリッククラウド）とコンシューマライゼーション(スマートデバイス・グローバル化・アウトソーシング・Y 世代)によってこれから大きく人々の働き方／生活が変わるであろうこと、そしてそれらはシトリックスのソリューション・製品である Receiver（個人所有端末を業務で利用することも想定し、あらゆるデバイスを通じてユーザーが企業のデータ、アプリケーション、デスクトップにアクセスできるクライアントソフト）、Cloud Gateway（クラウド／SaaS におけるユーザー・アクセス権の管理を統合・一元化可能に）、Cloud Bridge（プライベートクラウドとパブリッククラウドのセキュアでシームレスな接続を可能に）によって効率よくセキュアに実現できるとして、各製品の特性の説明を聞いた。

ショールームでは Receiver のデモンストレーションを受けた。現行の Windows, Mac, iPad, iPhone だけでなく Windows8 開発版に対しての対応も拝見、あらゆる端末でアプリ・データをシームレスかつセキュアに取り扱える事が良くわかり、クラウド／仮想化とコンシューマライゼーションという大きな IT 変



革に対してシトリックス社が包括したソリューションを提供していることを実感できた。

■ Hewlett-Packard

「HP は過去 5 年で 50 社を買収してきました。」

HP 社がいかに果敢に事業展開を行っているかを象徴している話から始まり、IT という言葉も「これからは Technology よりも Information 側が重要」という、非常に示唆に富む言葉に、HP 社の今後の方向性が表れていた。

HP 社は世界トップクラスのクラウドベンダーの多くに、主要なプラットフォームやサービスのインフラを提供し続けている。また、「Big Data」や仮想化にも積極的に取り組んでおり、直近の「Autonomy」「VERTICA」の買収はまさに次世代に必要とされる Big Data のリアルタイム解析ソリューションを実現するためとのことだった。



「持続可能な都市を目指して」という研究のプレゼンでは HP ラボの取り組みが紹介された。コンテナ型のデータセンターの可能性や、センサー技術により無駄をいかに減らすのかといった実践的な取り組みが具体的に説明された。これには Resource Management as a Service という新しい構想が提言され、一つの例として、家庭内の光熱費全体が管理できる UI

上で「テレビが消えているのに Xbox がついている場合、単なる消し忘れの可能性が高い」ことから、GUI には消し忘れかどうかを促し、次の対応を To Do List 化するようなマネージメントの新しい形が構築されていた。

この考え方を、ビルやキャンパス、都市全体といったサイズに行き渡らせ、数兆のセンサーを利用し、電力だけでなく水道やガス、交通機関や、資源の状況などあらゆる面で管理・コントロールを行うことでエネルギー・資源効率の最適化を図り「持続可能な都市」を実現する。これらを実現するためのキープロダクトとして「EcoPOD」というコンテナ型データセンターも準備されており、HP 社の研究成果が着実に現実の製品に反映されていることが実証されていた。

また会場を HP 社テレビ会議室「Halo」に場所を移し、パートナー営業統括本部執行役員より HP 社のアップデートを説明頂いた。この Halo というテレビ

会議システムは照明から机・壁紙のデザイン等全てがパッケージのシステムで、3面の大型 HD ディスプレイの採用によりあたかも同一会議室にいる感覚で会議ができるようにするテレビ会議システムであった。

HP 社の FY10 は 10%増と好調で、FY11Q3 にはソフトウェア事業とサーバー、ストレージ、ネットワーキング事業が大きく成長した。WebOS 情報端末からの撤退という厳しい側面はあるものの、同 OS を今後 SmartTV 等の情報家電に組み込むことが予想されており、更なる可能性を感じた。



9/22 に新 CEO に eBay CEO を長年勤めた Meg Whitman が就任。同社としてはサービスやソフトウェアビジネスへの傾注はするものの、ハードウェアビジネスやパートナーとの協調が HP 社の戦略のコアであり続けるという。PC 事業の売却といった噂が世間を騒がせたが、PC 事業は引き続きグループ内に保有する方向となるだろうとのことで、一安心でもある。日本向け PC の生産もデスクトップに続きノートも昭島での生産が始まり、さらなる信頼・安心を得られるであろう。

HP 社が提案する IT 基盤の方向性は、顧客のいる Stage を分析し、ともに様々な課題を解決していくのだというサービス主体の営業戦略になっている。そこに「Converged Infrastructure」に代表される圧倒的な高効率・低コストな HW 群が控えており、Hybrid クラウド環境の構築がワンストップで実現できる世界最大の IT 企業であることが十二分に理解できるプレゼンテーションであった。

※PC 事業部門を維持継続する事は 10 月 27 日に正式に HP 社から発表されました。

■TRENDMICRO

トレンドマイクロ社は創業が米国 LA でありながら、途中から本社機能を日本に移した異色の経歴の企業である。一貫して IT セキュリティに特化した事業展開を行っており、今回はトレンドマイクロ社のクラウド時代のセキュリティ対応戦略について話を伺った。



「Outside-in」で表される、外部からの侵入による攻撃もさることながら、これからは「Inside-out」と呼ぶ内部からの情報漏洩に注意しなくてはならない時代にさしかかっている。

トレンドマイクロ社の調査では 2009 年度を境に仮想化システムのシェアが Physical Hosts（物理ローカル動作システム）の数を上回ったとしており、仮想化システム向けのセキュリティニーズが急速に高まっていると考えている。仮想化システム上での効率的なデータ保護のためにモジュラー型の保護機能を採用し、AES 暗号化・リアルタイムプロテクションなど非常にフレキシブルな導入を可能にしている。また Deep Security*も順調に進化しており、トレンドマイクロ社のクラウド対応は全方位で準備されているようだ。ガートナーによると 2014 年までには 15%の IT 業務がクラウド基盤に移行し、Information Week では 28%のユーザーがプライベートクラウド既に利用しており、30%が移行を検討しているという情報を交え、トレンドマイクロ社による安全なクラウドへの誘いがいかにこれから有効であるかが実感できる内容となっていた。



*Trend Micro Deep Security とは、は現在のサーバが抱えているセキュリティ課題を仮想・クラウド・物理環境にまたがって、トータルに解決する統合型サーバセキュリティソリューション。主要なサーバ OS と 100 以上のアプリケーションの脆弱性に対応し、サーバを停止することなく、脆弱性を狙った攻撃から保護を実現。また、仮想環境へのウイルス対策ではゲスト OS ごとにウイルス対策ソフトをインストールする必要がないなどの特徴を備える。

■ Adobe Systems

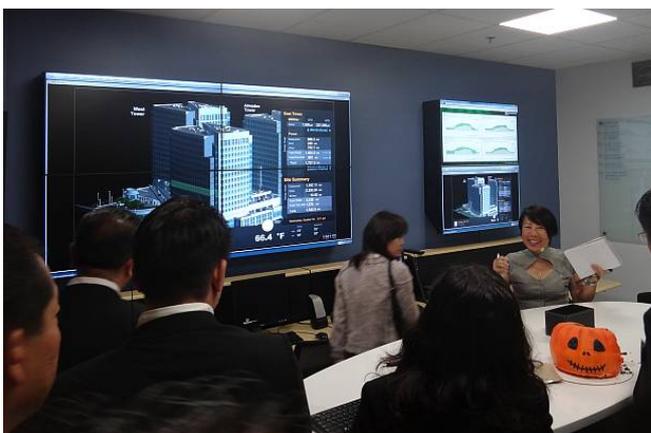
『Open Screen Project』でマルチデバイス戦略を加速するアドビシステムズ社からはデモンストレーションを中心に 2つのサービスの紹介を受けた。

「Adobe Carousel」はパソコン、タブレット、スマートフォンの 3つのデバイスでフォトアルバムの共有ができるサービスであり、それぞれのデバイスでは閲覧するだけではなく写真の色調や明るさの



変更、トリミングなどの加工が可能である。編集された写真はクラウドを経由して即座にそれぞれのデバイスに反映される。Facebook や Twitter との連携は既にサポートしており、他の写真共有サービスとの連携も視野にいられているとのことだった。Carousel と他社の類似サービスとの違いについて「Carousel は単なる写真の共有ではない、芸術の共有だ」との説明を受け、アドビシステムズ社がこのサービスにける想いを垣間見ることができた。

「Digital Marketing Suite」のソリューションである「Adobe Scene7」により、マルチデバイス間のルック&フィールの障壁は取り除かれる。利用者のデバイスに最適化されたメディアを配信することにより、ECサイトではコンバージョンをあげることができるし、さらに運用者のコスト削減にもなる。デモンストレーションでは、ユニバーサルビューを使ってビデオや画像を簡単に公開できることが確認できた。また、iOS にも力をいれており HTML5 もサポートできるようになったとのことであった。



2つのサービスの紹介の後には本社ビルのファシリティを見学した。建物の外観から内装、インテリアにいたるまでデザインが洗練されているのみならず、民間企業として世界で初めてLEED*の3つのプラチナ認定を獲得したという本社ビルを詳しく案内していただき、アドビシステムズ社の理念を垣間見るとともに現地ではか体感できない有意義な時間を過ごすことができた。

LEED (Leadership in Energy & Environmental Design)とは、米国グリーンビルディング協会 (USGBC) によって開発・運用されている、エネルギー効率に優れたサステナブルな建築物を普及させる目的で作られた建築物の環境配慮基準の認証制度で「認証」「シルバー」「ゴールド」「プラチナ」の4段階のランク付けがある。

*LEED (Leadership in Energy & Environmental Design)とは、米国グリーンビルディング協会 (USGBC) によって開発・運用されている、エネルギー効率に優れたサステナブルな建築物を普及させる目的で作られた建築物の環境配慮基準の認証制度で「認証」「シルバー」「ゴールド」「プラチナ」の4段階のランク付けがある。

■ZOHO

研修ツアーの最終日は、ビジネスアプリケーションをクラウドサービスとして提供している Zoho 社へ訪問した。US の本社はプリサントン (サンフランシスコから湾を渡って西、サンノゼからみると北) にあり、オフィスは日本を含めた数カ国にある技術系の企業である。Zoho 社のサービスラインアップは、ネットワーク運用管理のプラットフォームである「WebNMS」、ネットワーク運用管理ツールの「ManageEngine」、そしてクラウドサービスの「ZOHO」の3つの柱で構成されている。

COO の話によると、昨今は Twitter や Facebook などに代表されるように 24 時間の IT 運用管理が必要とのことで、"Real-Time IT" というキーワードを交えながら「ManageEngine」のビジョンの説明を聞いた。

CEO からはクラウドサービスの市場動向と Zoho のロードマップについてのプレゼンテーションを聞いた。Amazon や Rackspace Cloud、Microsoft Azure に代表される IaaS は初期投資が大きく収益性が低いうえに差別化も難しいが、Zoho は収益性の高いアプリケーション提供者であること、そして CRM のように既にクラウドで成功している分野ではデフレが進んでおり、低価格の Zoho 社がシェアを拓けているとのことであった。



プレゼンテーション終了後の質疑応答では、Office365 との互換性と差別化、セキュリティ、サポート体制など、様々な質問がなされ、アプリケーションスイートの分野における各社の関心の高さと Zoho 社に対する期待値を感じられた。今後注目していきたい。

■Apple

JCSSA ツアーでは、以前に数回アップル社を訪問し、マッキントッシュやアイポッドの動向について、聞いていた。しかしこの 10 月にアップルだけでなく全世界の IT 業界にとって残念な出来事があった。アップル CEO であり、シリコンバレーのイノベーターであったスティーブジョブズ氏の逝去である。まだまだ新しい斬新な製品への期待も少なからずあったため、この早すぎる逝去は大変惜しまれる。今回の JCSSA ツアーでは、企業訪問の途中でアップル社に立ち寄り、参加企業一同で献花を行った。本社脇には献花のための場所が設けられ、多くの花束や追悼の品々が置かれていた。一同安らかなる眠りを祈ってお別れをして来たことを最後に追記させて頂く。



(記：ソフトバンク BB 中川氏、加賀ソルネット安岡氏、ソフトクリエイイト沼田氏)